



2 アレクサンダー・カーノルト《静物》 (1881-1939)

1925年、油彩・カンヴァス

作者はドイツ生まれ。第一次世界大戦のあと、多くの人が貧困に苦しんだ時代の空気を描きました。

植物の葉っぱも白紙のノートも、「ピン」と張りつめているみたい：うまく言葉にできないけど、不思議な絵ね

この絵が描かれた時代のドイツでは、あまり感情を込めない、いわば「冷めた」表現が流行したのさ

ごくありふれたものを描いているが、描き方に注目だ

部屋が暗いからかしら、空気が重いような感じ…

リアルな描き方！
…でも、どこか変だね

これって
絵なの？

楽譜？

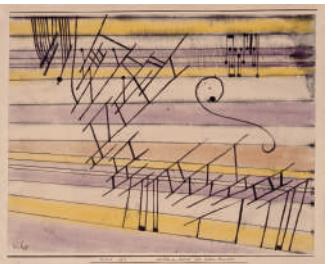
これも

絵なの？



3 パウル・クレー (1879-1940) 《ある音楽家のための楽譜》 1924年、 インク・水彩・紙

作者はスイス生まれ。両親は音楽家で、本人も小さな頃からヴァイオリンを弾くことが好きでした。

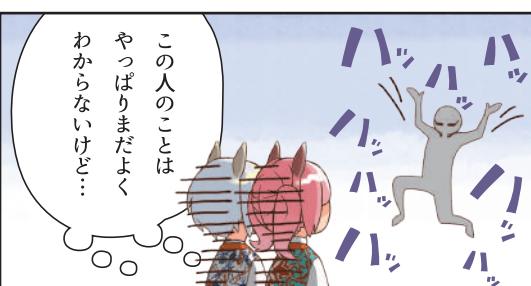
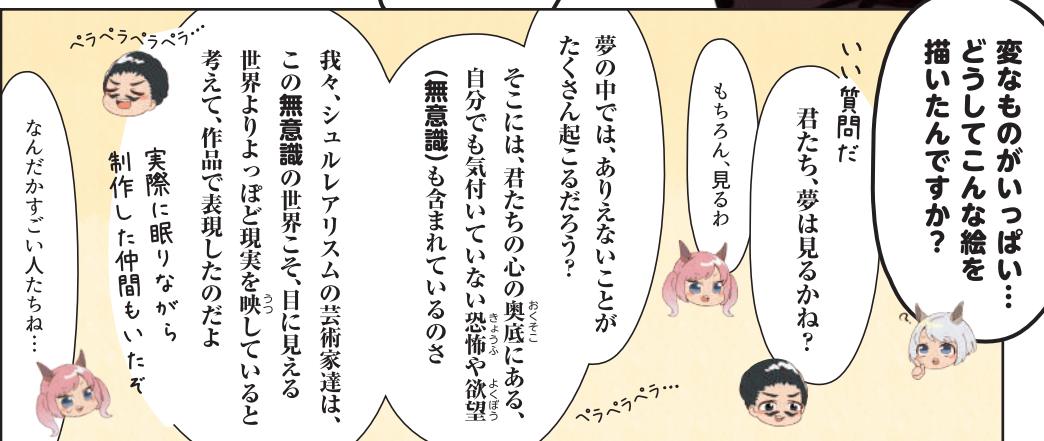


1 サルバドール・ダリ (1904-1989) 《ヴィーナスの夢》 1939年、油彩・カンヴァス

作者はスペイン生まれ。
横幅5メートル近いこの大きな絵の中には、柔らかい時計、アリやロブスター、燃えるキリンなど、作者がくり返し描いた要素がつめこまれています。

天才
サルバドール・ダリが誘う、

無意識の世界へ
ようこそ…！



次は

西洋絵画

ウェルカム・トウ
ダリ・ワールド…

変なものがいっぱい…
どうしてこんな絵を
描いたなんですか？